

2018年12月30日

年末感謝礼拝説教要約

## 成長する教会

(1コリント3・6)

### 一、パウロとアポロ

きよの聖句であり、今年ベテルキリスト教会に与えられた聖句である、コリント人への手紙第一3章6節を見てください。《私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。》とあります。ご存じのように、コリントという、ギリシャの南半分にあたるアカヤ州にあった教会は、非常に活発に活動していました。活発であつたがゆえに、教会員の中に分裂分派が起りました。「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケパ。(ペテロ)に」「私はキリストにつく」という具合です。そこで、使徒パウロが語つたのは「ちがいは認める。しかし基は一つである」というメッセージでした。教会は、教会を構成する一人ひとりが、イエス・キリストを土台として成長します。そして成長しますと、その姿は互いに同じではないのです。もちろん、教会外の人たちが私共を見て、世の人々とは異なる「似たような雰囲気」を感じ取るなら、それはそれでかまいません。ですが、教会員は一人一人異なるというのが、使徒パウロが語つたメッセージです。そのことを、パウロは『コリント人への

手紙第一』の中で展開しています。ちなみに、12章4〜7節をご覧ください。

《さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。》とあります。これは、御心に添つた「ちがひ」です。ところが、まちがつた「ちがひ」があります。それは、だれかに付くことにより、分裂分派が生じるちがひです。

### 二、成長させたのは神

パウロは、人がイエス・キリストを信じて成長することを植物にたとえています。そういうわけで、パウロが「私が植えた」と語るときに、何を植えたのかが見えてまいります。それは、イエス・キリストの言葉、言い換えるなら十字架の言葉という、神の言葉です。そういうわけで、人が素直にイエス・キリストを受け入れますと、種から芽が出て成長するようになります。パウロには「使徒」という召しが与えられ、それを現実にさせる賜物が与えられていました。ですから、まだ伝道されていらない所に出て行き、キリストの善き知らせを伝えるときに、賜物が發揮されて、結果が生まれました。アポロは少し異なつたようです。アポロはアフリカのアレキサンドリア生れのユダヤ人でした。雄弁で、聖

書によってイエスがキリストであることを証明し、力強くユダヤ人たちの論破しようです。パウロもアポロも、それぞれにすばらしい賜物が与えられていました。今日も、神は一人一人に異なつた召しと賜物をお与えになつておられます。パウロのような働きをする方もいます。アポロのような働きをする方もいます。しかし、たいせつなのは信仰者を成長させる神の働きです。

### 三、土台はイエス・キリスト

もう一つのたいせつなことは、信仰の土台です。それは何でしょうか。イエス・キリストです。創造主なる神は私共人間に自由を授けられました。罪を犯して墮落してしまふかもしれないほどの自由を授けられました。こうして私共は、聖なる神によらないで、自分で生きて行くという罪の道を選びました。ですが、神は私共を罪から救うために御子イエス・キリストを遣わされました。そして、私共が受けなければならぬ聖なる神からの罰を、御子イエス・キリストの上に下されました。イエス・キリストを信じる者は救われるという道をつくられました。それでもイエス・キリストを拒み続けて死を迎えるなら、聖なる神からの罰は私共に下ることになります。と言うことは、今現在キリストを拒んでいる人は、死ぬまでの間、「執行猶予期間」と言うことになりま

す。聖なる神からの刑罰は御子イエスに下りました。ですから、信じていないからといって、災いが及ぶわけではありません。しかし神の恵みを拒み続けるなら、聖なる神からの罰が私たちに下ることになります。この、救い主であるイエス・キリストを知り、喜んでお従いして行くのが、信仰の土台です。

いかがでしょうか。皆さまは、イエス・キリストという土台を授かっていますか。授かっているなら、何も心配することはありません。その土台の上に人生を築き上げて行つたらよろしいのですが、もし土台がイエス・キリストでなかったなら、逆境がやつてきたときに、明らかにあります。たとえば、「教会につながっていたらみんなが心配してくれる。孤立しない」とか、「教会につながっていたら霊的な満ちたがある」とか、「教会につながっていたらいろいろと教えられる」とかです。いづれも良いものです。教会の活動にとつてたいせつな内容です。ですが、それらの「良いもの」「たいせつな内容」は、土台にはなりません。それらを土台としてしまふなら、試練の日に崩れ去つてしまひ、嘆くことになります。願わくは、パウロが植えて、アポロが水を注いだキリストの善き知らせが、私たち信仰者の土台となり、生涯この道に歩むことができるように祈る者であります。